

水生生物調査とは

川をすみかとする生物には、きれいな水にしかすめない生物、汚い水でも生きていける生物等、川の水質に影響されるものが多いです。

このような生物を調べることによって、その地点の川の水質を判定することを水生生物調査（リバーウォッチング）と呼んでいます。

1 水生生物調査の利点

- (1) 水質の判定方法は、一般の人にも分かりやすいものである上、高価な器具や化学分析のような特別の技術を要しないことから、誰でも調査に参加できる。
- (2) 現地で直ちに水質の判定ができる。

2 判定方法

川辺で生きものをつかまえて、水の汚れの程度を表す目安になる生きもの（指標生物）について調べることにより、その川の水質を4階級に分けます。

水の様子	水質階級
きれいな水	I
少しきたない水	II
きたない水	III
大変きたない水	IV

3 指標生物とは

川の水生生物は酸素を吸って生きています。汚れている川では水中に溶けている酸素が細菌などによってたくさん使われることから、酸素の量が少なくなってしまう。酸素の量が少なくなると、きれいな水にすむ生物はすめなくなり、汚れたところの生物が多くみられるようになります。このように、水の中に溶けている酸素の量とそこにすむ生物の関係から、その地点にすむ生物を調べることにより、水質など川の環境の状態が分かります。このように川の環境の状態を私たちに教えてくれる生物を『指標生物』といいます。

沖縄県では、県内に分布している25の指標生物が選定されています。

4 水質階級と指標生物

水質階級	種類数	指標生物
水質階級I きれいな水	11種類	1. ウズムシ類、2. ガガンボ類、3. ブユ類、4. ナガレアブ、5. カワゲラ類、6. ヘビトンボ類、7. マルヒラタドロムシ、8. ヒメドロムシ類、9. サワガニ類、10. ナガレトビケラ類、11. 10、16以外のトビケラ類
水質階級II 少しきたない水	6種類	12. イシマキガイ、13. カワニナ、14. ヒメモノアラガイ、15. 20以外のヒラマキガイ類、16. コガタシマトビケラ、17. ヒメカゲロウ
水質階級III きたない水	3種類	18. ミズムシ、19. ヒル類、20. クルマヒラマキガイ
水質階級IV 大変きたない水	5種類	21. ユスリカ類、22. チョウバエ類、23. サカマキガイ、24. タイワンモノアラガイ、25. エラミミズ、